

2022年度 授業評価アンケートを活用した満足度の分析結果

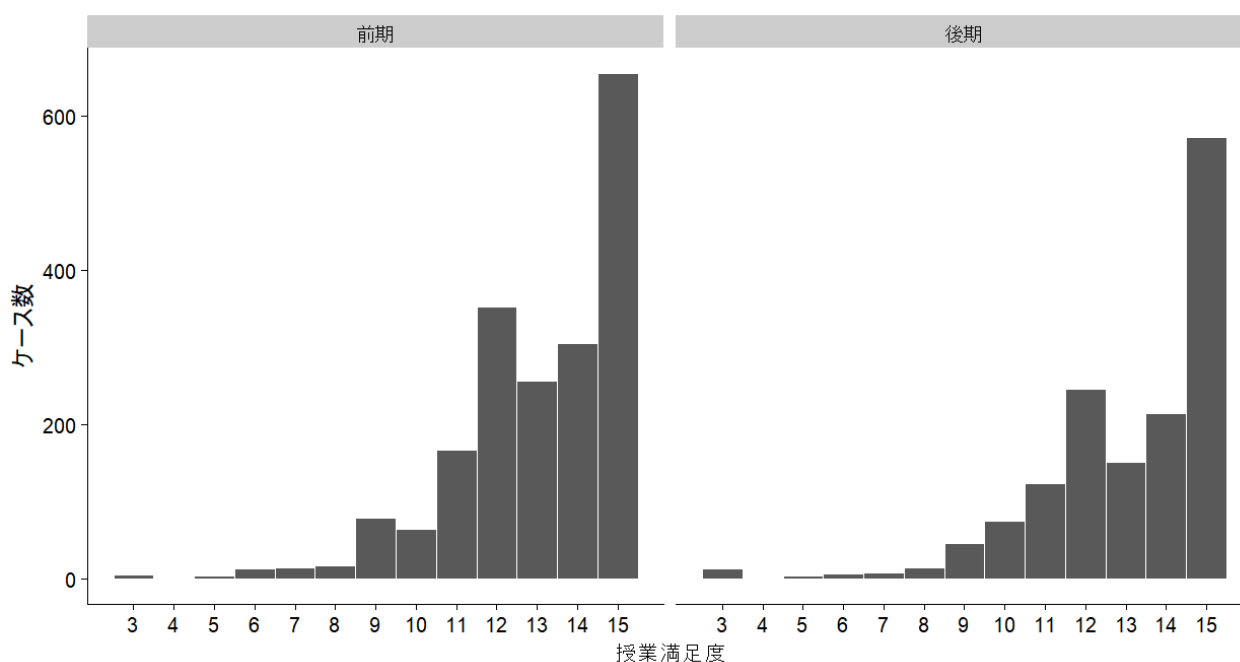
1) アンケートの回収状況

	履修者数	回答者数	回答率
前期	4,183	1,953	46.7%
後期	3,773	1,481	39.3%

- ・ 2022年度の授業評価アンケートの回収状況は上記の通り。

2) 授業満足度の分布

- ・ 授業満足度は、「この授業で学んだ内容は、将来役に立つと思った」「この授業に出るのが楽しみだった」「全体として、この授業を受けて満足した」の各項目について、そう思う（5点）～そう思わない（1点）で得点化し、3つの項目を合成して授業満足度の指標とした（最小値：3点～最大値：15点）。

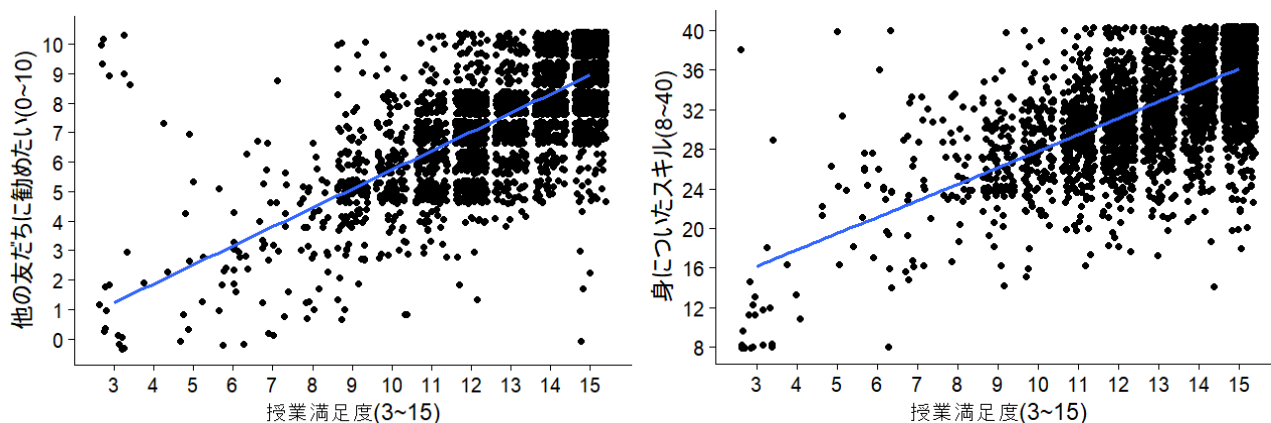


- ・ ピークが来ているのは最大値の15点で、全体の35%程度の割合となっている（3つの項目すべてで

「ややそう思う」を選んだ場合は 12 点、すべてで「どちらともいえない」を選んだ場合は 9 点)。

- ・ 前期と後期でそれほど大きな違いはみられない。

3) 授業満足度と友だちに勧めたい度合い／身についたスキルとの相関



- ・ 授業満足度と友だちに勧めたい度合い（左図）、授業満足度と身についたスキルの散布図を示す。どちらも右肩上がりとなっており、正の相関がみられることがわかる。前者の相関係数は 0.71、後者は 0.66 となっている。

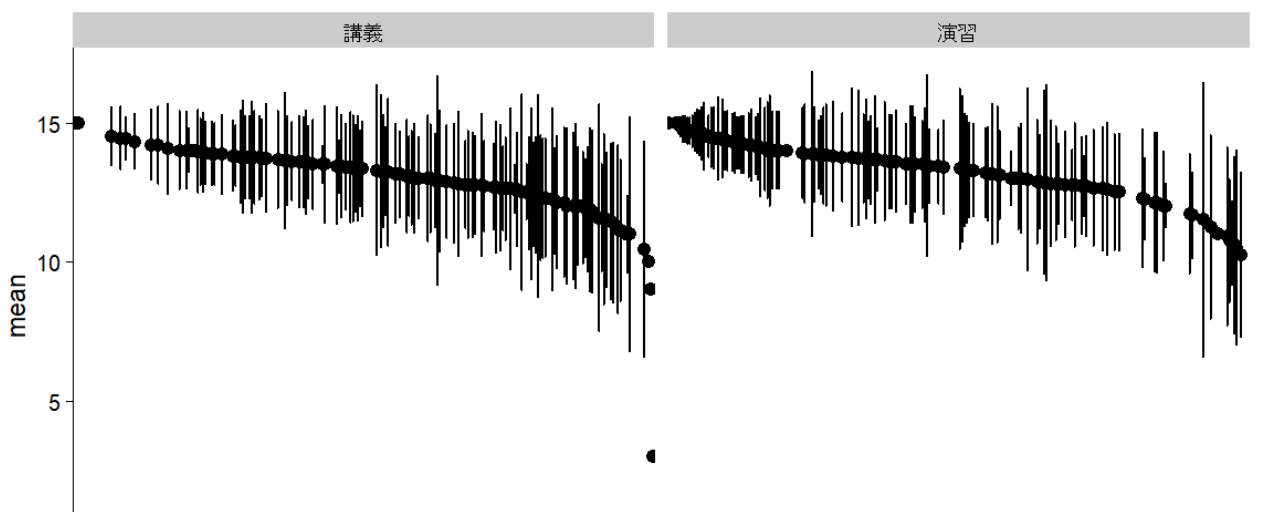
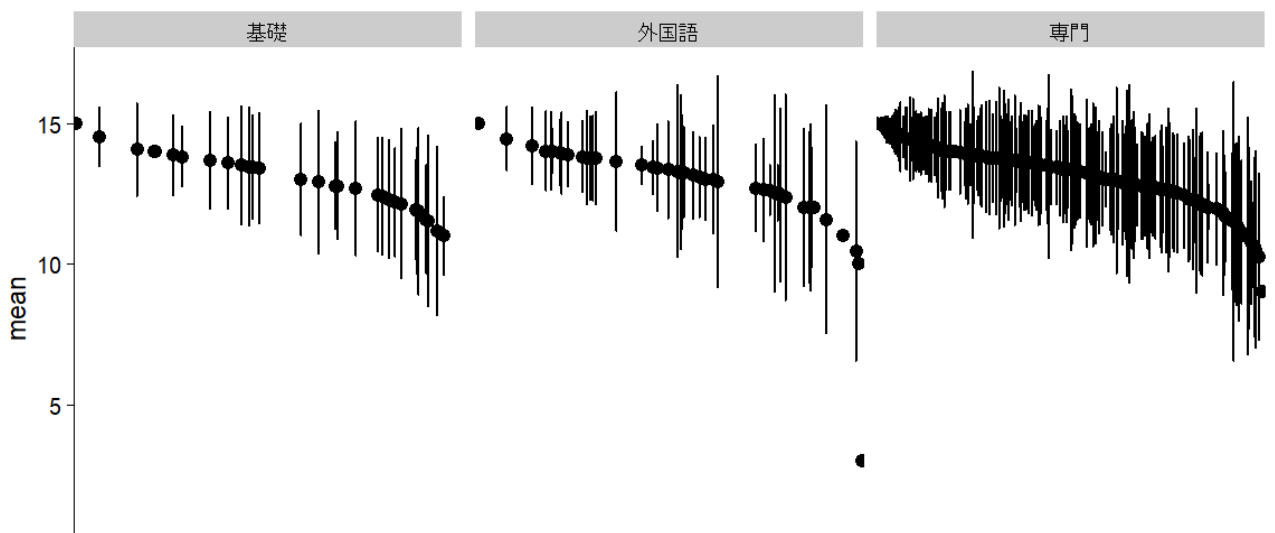
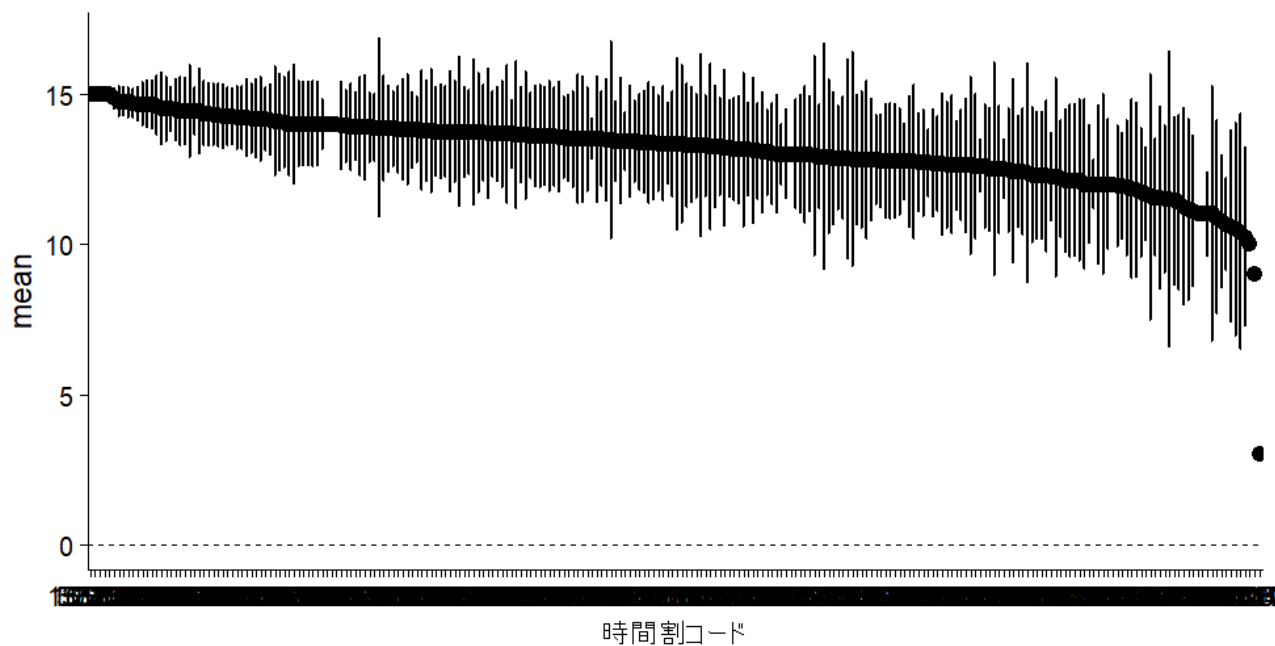
→授業満足度が高い学生は、その授業を他の友だちにも勧めたいと思っており、スキルも身についたと実感している傾向にある。

※身についたスキルの得点は次の 8 項目を元に作成している。

- ①自分で主体的に行動する力 ②自分の考えを表現し、他者に発信する力 ③社会のために積極的に行動し貢献する力
- ④問題や課題を発見し、解決する力 ⑤コミュニケーションする力 ⑥専門分野の知識・技能を活用する力
- ⑦新しいものの見方や考え方 ⑧知的好奇心や探求心

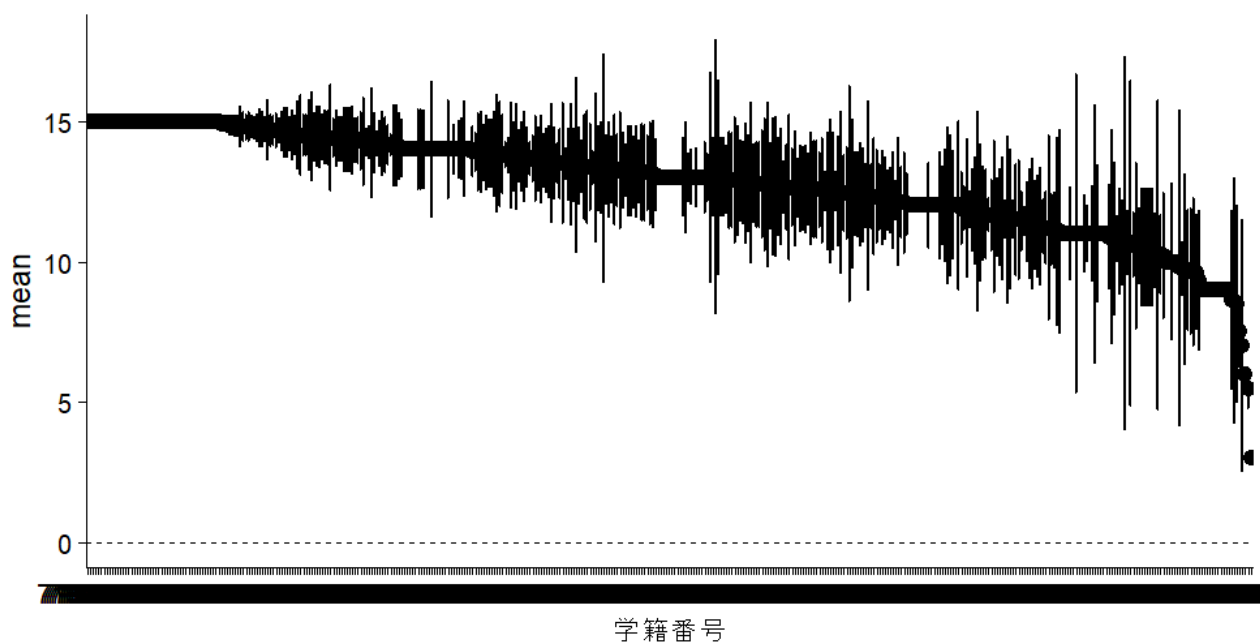
4) 授業ごとにみた授業満足度の分布

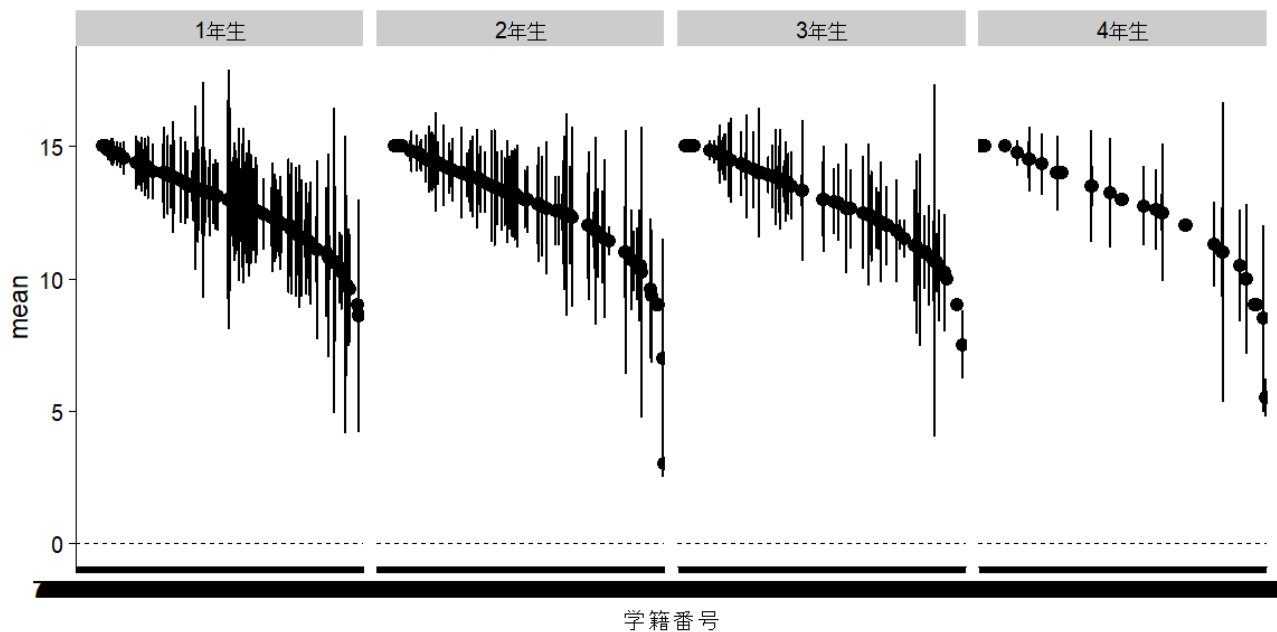
- ・ 授業ごとに授業満足度の平均をとり（全 248 ケース）、平均の高い順に並べたグラフを示す。
- ・ 黒のプロットが平均で、上下に伸びている棒は標準偏差（ばらつき）を示す。たとえば、20 人受けている授業があれば、平均の満足度が 12 点だとしても、15 点の人がいれば、9 点の人もある。そのばらつきが大きいほど、上下に伸びている棒の長さは長くなる。
- ・ 図をみると、平均満足度が高い授業はばらつきが小さく、平均満足度が低い授業はばらつきが大きいことがわかる。
→満足度が高い授業は、だいたい多くの人が高い満足度を示しているが、満足度が低い授業は、低い人もいれば高い人もおり、差が大きい。
- ・ 平均満足度は左から右へなだらかに下がっているが、後半は急激なカーブを描いて下がっている。
→数は少ないが、満足度が他に比べて低い授業が存在する。
- ・ 科目分類（基礎、外国語、専門）、形態（講義、演習）ごとのグラフもあわせて示す。



5) 学生ごとにみた授業満足度の分布

- ・ 学生ごとに授業満足度の平均をとり（全 427 ケース）、平均の高い順に並べたグラフを示す。
- ・ 黒のプロットが平均で、上下に伸びている棒は標準偏差（ばらつき）を示す。たとえば、10 個の授業を受けている学生は、平均の満足度が 12 点だとしても、満足した（15 点をつけた）という授業もあれば、あまり満足しなかった（9 点をつけた）という授業もある。そのばらつきが大きいほど、上下に伸びている棒の長さは長くなる。
- ・ 図をみると、平均満足度が高い学生はばらつきが小さく、平均満足度が低い学生はばらつきが大きいことがわかる。
 - 満足度が高い学生は、だいたい多くの授業に高い満足度を示しているが、満足度が低い学生は、低い授業もいれば高い授業もあり、差が大きい。
 - 平均満足度が低い学生にとって、満足度が高い授業はどのようなものか調べられたらおもしろい。
- ・ 平均満足度は左から右へなだらかに下がっているが、後半は急激なカーブを描いて下がっている。
 - 数は少ないが、満足度が他に比べて低い学生が存在する。
- ・ 授業満足度はだいたい 15～5 の範囲に収まっている。一方で、授業ごとにみたグラフでは、だいたい 15～10 の範囲に収まっている。
 - 授業ごとのばらつきよりも、学生ごとのばらつきが大きい。授業間の格差よりも、学生間の格差が大きい。そのため、授業の改善をいかに進めるかという視点だけではなく、授業に満足できていない学生にどのように支援するか、どのような授業が有効かといった視点をもつことも大切。
- ・ 学年ごとのグラフもあわせて示す。





6) 授業満足度の規程要因

- ・ 授業満足度がどのような要因に影響を受けているか、重回帰分析と呼ばれる手法によって検討した。

(表の見方)

- 「満足度」の、授業形式-演習の項目で 0.147 となっている。これは、「講義」形式の授業に比べて「演習」形式の授業の方が、満足度が高い傾向にあることを示す。

- 「教員は授業方法や配布・提示資料など工夫をしていた」の項目で、0.156 となっている。これは、教員が授業方法に工夫をしているような授業ほど、満足度が高いことを示す。

- 数値の横につく「*」の記号は、統計的に有意な数値かどうかを示す。「***」の場合 0.1%水準で有意、「**」の場合、1%水準で有意、「*」の場合、5%水準で有意を示す。空欄になっている項目は有意ではない、つまり、満足度・身についた能力に影響がないことを意味する。

- ・ 前回（第 4 回 IR 推進委員会資料）に加えて、学生の要因として GPA とメンタルヘルスの変数を追加した。GPA は有意な影響をもっているが（GPA が高い学生は授業満足度が高い傾向にある）、メンタルヘルスは有意な影響はない（メンタルヘルスが高くても低くても、授業満足度に関係はない）。
- ・ 今後の課題としては、その他の学生の要因を探りながら、どのような学生が授業満足度が低くなってしまっているのかを探ることを検討していきたい。

科目分類	(ref. 基礎科目)	
	外国語科目	
	専門科目	
授業形式	(ref. 講義)	
	演習	0.147 ***
授業の難易度	(ref. 適切だった)	
	難しかった	-0.107 ***
	簡単だった	
授業の進め方	(ref. 適切だった)	
	速かった	-0.038 **
	遅かった	-0.019
課題の量	(ref. 適切だった)	
	多かった	-0.105 ***
	少なかった	0.042 ***
教員の授業 の取り組み	教員は授業方法や配布・提示資料 など工夫をしていた	0.156 ***
	教員は熱意を持って授業を行っていた	0.215 ***
	教員の話し方は聞き取りやすかった	0.114 ***
	シラバスに沿って行われていた	0.095 ***
	授業の開始・終了時間は守られていた	0.033 *
	教員は学生が取り組んだ課題に対して、 適切なフィードバックをしていた	0.150 ***
	この授業では、グループ作業や ディスカッションの機会があった	-0.019
	この授業では、自ら進んで 調べ学習をする機会があった	0.099 ***
	予習・復習に取り組んだ時間	0.092 ***
	通算GPA (2022年度後期時点)	0.038 **
学生の要因	メンタルヘルス	